



伝統の技術をとじこめた一品で生活を華やかに！

桃山・江戸時代に確立された金彩工芸は帯や着物等に金箔を施す技術です。日常生活に使っていただこうと、その技術を活かして加工した生地をガラス加工業者とのコラボレーションでガラス製のトレイに仕上げました。

表面はガラス素材、裏面は特殊樹脂でコーティングしサンドしてあります。裏面の樹脂は滑り止め効果のあるノンスリップ加工です。

大切なお客様へお菓子等をのせる豆皿として、また装着したアクセサリーを置くトレイとしてもご利用いただけます。使い方は自由です。

伝統の技術をとじこめたこの品で生活を華やかに楽しんでください。

お手入れ方法

お菓子等の食品でのご使用後は中性洗剤を含ませたスポンジで軽く拭いて洗い流してください。

取り扱い注意事項

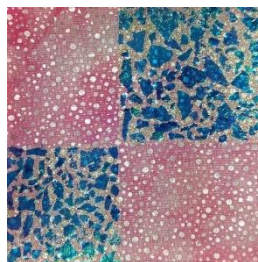
水洗いは大丈夫ですが、水につけおきは不可。電子レンジ・食洗器・食器乾燥機は使用できません。熱湯をかけないでください。

京都東急ホテル オリジナルデザイン！



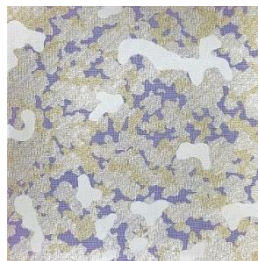
月に市松黒色

コットンむら染黒色地に月に市松紋様を加工。月は純金箔をベースに銀箔と虹彩箔（金色にマール紋様を染めた特殊な箔）を使い混色加工。線紋様の市松は銀箔で加工。和のイメージがありながらもモダンに仕上げています。



市松ピンク色

コットンむら染ピンク色地に不定形の市松紋様を加工。ホログラム箔で霰紋様を加工し、オパールのように輝くオパール箔で市松紋様を表現しました。角度を変えるとオパール箔がブルー・グリーンに色目が変わります。ビビットな雰囲気になっています。



カモフラ藤色

コットン藤色地に銀箔・中色箔（金と銀の中間色）・胡粉（白色の顔料）でカモフラ調に加工。色を重ね、紋様に奥行きが出るように表現しました。パステル調でまとめているので柔らかい雰囲気に仕上げられています。

サイズ | 縦横約100mm×厚み約3mm


製造者 | 二鶴工芸 (FUZURUKOUGEI) / 上仲 昭浩 (AKIHIRO UENAKA)

呉服（着物・帯）に金箔を装飾加工する金彩工芸に従事している。金彩工芸は施された金箔紋様が光線や見る人の角度によって紋様が立体的に浮かび上がる。この金箔の特徴と不思議な作用を生かせるデザインを心がけ、シンプルながらも神秘的なものづくりを心掛けている。また呉服物だけでなく、異分野の職人たちとのコラボレーションによってインテリア・バッグ・財布等の実用品も制作している。

二鶴工芸 (京友禅 金彩加工)



工房名	二鶴工芸 (ふづるこうげい)
住所	〒601-8306 京都市南区吉祥院宮ノ西町3番地
TEL・FAX	TEL : 075-314-7579
E-mail	qqsk7q8d@wine.ocn.ne.jp
URL (参考)	ブログ : https://ameblo.jp/hudurukougei/
休業日	日・祝休
営業時間	9:00～18:00
工房情報	<p>呉服(着物・帯)に金箔を装飾加工する金彩工芸の工房。</p> <p>金彩工芸は施された金箔紋様が光線や見る人の角度によって紋様が立体的に浮かび上がり、この金箔の特徴と不思議な作用を生かせるデザインを心がけ、シンプルながらも神秘的なものづくりに挑んでいる。</p> <p>また呉服物だけでなく、異分野の職人たちとのコラボレーションによってインテリア・バッグ・財布等の実用品も制作している。</p>

職人名	上仲 昭浩 / Akihiro Uenaka	
プロフィール	1969年	京都生まれ 高校卒業後7年間金彩工芸士の元橋宏太郎に師事後、家業である呉服金箔加工 二鶴工芸に入社。
	1998年	京都府工芸技術コンクール 帯 裂取金唐革 入選 新・京ものコンペティション テーブルセンター入選
	1999年	京都府工芸技術コンクール 帯 松皮取金唐革 入選
	2000年	京扇子図案コンクール 銅賞
	2001年	京扇子図案コンクール 銀賞
	2002年	扇子うちわ FADC 入選
	2003年	京展 着物 満天 入選
	2004年	京展 着物 月影 入選
	2006年	京都デザイン優品 ショルダーバッグ 入選
	2008年	京の若手職人 京もの認定工芸士
	2015年	H27年度 全国伝統的工芸品 公募展 作品展 デニム製 角帯 七宝 入選
2016年	京都府クラフト・コンペティション 審査員奨励賞 受賞 竹節酒器セット (柴田恭久氏とのコラボ)	